

結核について

結核とは『結核菌』という細菌が直接の原因となっておこる病気で、主に肺の内部で増えるため、咳、痰、発熱、呼吸困難など、風邪のような症状を呈することが多く、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。結核が進行すると、咳やくしゃみによって、空気中に結核菌が飛び散るようになり、その結核菌を吸い込むことにより周囲の人に感染が広がります（空気感染）。毎年10,000人以上の患者が発生しており1,500人以上が命を落としています。

特に高齢者では結核を発症しても症状が軽症のまま経過することがあり、また小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要です。若年者では特に外国

生まれの患者の割合が増加しており、20～29歳の新規患者の8割以上を占めています。

大都市の一部の結核罹患率は依然群を抜いており、集団感染事例もあとをたちません。また、開発途上国では依然として公衆衛生上の大問題であり、交通手段の高速化、大量化、効率化によって感染者の移動も容易なことから、問題は途上国に留まらないことが指摘されています。

結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。有症状時の早期受診や定期的な健康診断（胸部X線検査など）が重要です。咳や痰が2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



結核と診断されています。

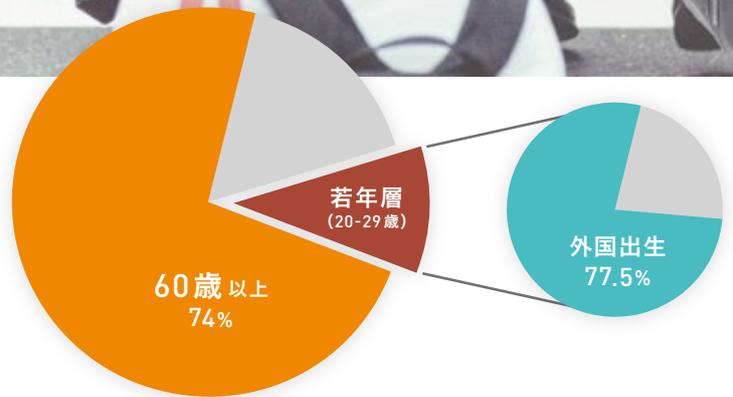
1日平均

28人

が

いまも

せき・たんが2週間以上続いたり、
微熱や体のだるさが続く場合は、
早めに医療機関を受診しましょう



- ・新規結核患者は、高齢者に多く、およそ3/4 (74%) は60歳以上
- ・特に若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、若年層 (20-29歳) の新規患者のおよそ3/4 (77.5%)

